

平成25年度採択プログラム 事後評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	九州大学	整理番号	P02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) くぼ ちはる 氏名・職名 久保 千春・九州大学総長		
2. プログラム責任者	(ふりがな) やすら ひろと 氏名・職名 安浦 寛人・九州大学理事・副学長		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) やはら てつかず 氏名・職名 矢原 徹一・九州大学大学院システム生命科学府・教授		
4. 類型	P<オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	
	英語名称	Graduate education and research training program in decision science for a sustainable society	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	【博士学位分野】文学、心理学、理学、数理学、機能数理学、教育学、工学、芸術工学、情報科学、学術、人間環境学、システム生命科学、感性学、オートモーティブサイエンス、ライブラリーサイエンス、法学、経済学、医学、看護学、保健学、歯学、臨床歯学、創薬科学、臨床薬学、農学 【付記する名称】決断科学大学院プログラム		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	情報学分野全分科、環境学分野全分科、複合領域分野全分科、総合人文社会分野全分科、人文学分野全分科、社会科学分野全分科、数物系科学分野全分科、化学分野全分科、工学分野全分科、総合生物分野全分科、生物学分野全分科、農学分野全分科、医歯薬分野全分科		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	人文科学府人文基礎専攻、地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻、人間環境学府行動システム専攻、法学府法政理論専攻、経済学府(経済工学専攻、経済システム専攻)、理学府地球惑星科学専攻、数理学府数理学専攻、システム生命科学府システム生命科学専攻、医学系学府環境社会医学専攻、歯学府歯学専攻、薬学府創薬科学専攻、工学府(建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻)、芸術工学府芸術工学専攻、システム情報科学府(情報学専攻、情報知能工学専攻)、生物資源環境科学府(環境農学専攻、農業資源経済学専攻)		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	富士通株式会社、京セラ株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、トヨタ自動車株式会社、一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン		

14. プログラム担当者の構成 計 64 名			
外国人の人数	8 人	[ 12.5 %]	女性の人数 13 人 [ 20.3 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 84.4 %]			
プログラム実施大学に属する者	54 人	プログラム実施大学以外に属する者	10 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	40 人	そのうち、大学等以外に属する者	7 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
(プログラム責任者) 安浦 寛人	ヤスウ ヒロト		理事・副学長	情報工学、システムLSI 設計技術工学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 矢原 徹一	ヤハラ テツカズ		大学院システム生命科学府システム生命科学専攻・教授	生態学理学博士	プログラムコーディネーター
吉原 雅子	ヨシハラ マサコ		大学院人文科学府人文基礎専攻・准教授	現代倫理学博士(人文科学)	環境モジュール担当
荒谷 邦雄	アラヤ クニオ		大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻・教授	生物多様性科学博士(理学)	環境モジュールサブリーダー
百村 帝彦	ヒヤクムラ キミヒコ		大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻・准教授	熱帯林環境保全学、森林資源管理学、博士(農学)	環境モジュールリーダー
山口 裕幸	ヤマガチ ヒロユキ		大学院人間環境学府行動システム専攻・教授	社会心理学、集団力学、組織行動学、博士(教育心理学)	人間モジュール担当
嶋田 暁文	シマダ アキフミ		大学院法学府法政理論専攻・准教授	行政学・地方自治論・修士(政治学)	統治(ガバナンス)モジュール担当
橋彌 和秀	ハシヤ カズヒデ		大学院人間環境学府行動システム専攻・准教授	比較発達心理学博士(理学)	人間モジュールリーダー
河野 俊行	コウノ トシユキ		大学院法学府法政理論専攻・教授	国際私法・国際文化遺産法・法学修士	人間モジュール担当
出水 薫	イズミ カオル		大学院法学府法政理論専攻・教授	政治学博士(法学)	副コーディネーター(教務担当) 統治(ガバナンス)モジュールリーダー
永田 晃也	ナガタ アキラ		大学院経済学府産業マネジメント専攻・教授	科学技術政策・技術経営・経済学修士	統治(ガバナンス)モジュールサブリーダー
加河 茂美	カガワ シゲミ		大学院経済学府経済システム専攻・教授(H30.4.1変更)	経済統計学博士(学術)	環境モジュールサブリーダー
内田 交謹	ウチダ コウキン		大学院経済学府経済工学専攻・教授	コーポレート・ファイナンス、博士(経済学)	環境モジュール担当
鹿島 薫	カシマ カオル		大学院理学府地球惑星科学専攻・准教授	自然地理学・理学博士	災害モジュール担当
谷口 説男	タニグチ セツオ		大学院数理学府数理学専攻・教授	確率解析とその応用理学博士	確率演習担当
前園 宜彦	マエノ ヨシヒコ		大学院数理学府数理学専攻・教授	数理統計理学博士	統計演習担当
二宮 利治	ニミヤ トシハル		医学研究院附属総合コホートセンター・教授	腎臓学、臨床疫学・医学博士	健康モジュールサブリーダー
中島 直樹	ナカシマ ナオキ		大学院医学系学府環境社会医学専攻/大学病院・教授(H28.4.1変更)	医療情報学、内科学、糖尿病学・医学博士	健康モジュールリーダー
高橋 一郎	タカハシ イチロウ		大学院歯学府歯学専攻・教授	歯科矯正学博士(歯学)	健康モジュール担当
黒瀬 等	クロセ ヒトシ		大学院薬学府創薬科学専攻・教授	分子循環薬理学薬学博士	健康モジュール担当
島谷 幸宏	シマタニ ユキヒロ		大学院工学府都市環境システム工学専攻・教授	河川工学博士(工学)	災害モジュールリーダー
塚原 健一	ツカハラ ケンイチ		大学院工学府都市環境システム工学専攻・教授	防災学 Ph. D.	災害モジュールサブリーダー
三谷 泰浩	ミヤニ ヤスヒロ		大学院工学府建設システム工学専攻・教授	地圏環境工学・防災工学・博士(工学)	災害モジュール担当
馬奈木 俊介	マナキ シュンスケ		工学研究院環境社会部門・教授	経済学、政策学、都市工学・博士(経済学)	災害モジュール担当
知足 美加子 (H30.4.1追加)	トモタリ ミカコ		大学院芸術工学府芸術工学専攻・准教授	彫刻・博士(芸術学)	災害モジュール担当

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
牛尼 剛聡	ウシアマ タケシ		大学院芸術工学府芸術工学専攻・准教授	Web情報学・博士(工学)	プレゼンテーション/広報支援担当
岡田 義広	オカダ ヨシヒロ		大学院システム情報科学府情報学専攻・教授	情報科学 博士(工学)	プレゼンテーション/広報支援担当
池田 大輔	イケダ ダイスケ		大学院システム情報科学府情報学専攻・准教授	情報学・博士(理学)	人間モジュールサブリーダー
Ahmed Ashir	アハメット アシル		大学院システム情報科学府情報知能工学専攻・准教授	情報通信技術、社会開発・博士(情報科学)	健康モジュールサブリーダー
佐竹 暁子	サタケ アキコ		システム生命科学府システム生命科学専攻・教授 (H30.4.1変更)	数理生物学・博士(理学)	人間モジュールサブリーダー (H30.4.1変更)
溝上 展也	ミヅウエ ノブヤ		大学院生物資源環境科学府環境農学専攻・准教授	森林計画学、森林計測学・農学博士	環境モジュール担当
大槻 恭一	オツキ キョウイチ		大学院生物資源環境科学府環境農学専攻・教授	水文学 農学博士	災害モジュールサブリーダー
矢部 光保	ヤベ ミツヤス		大学院生物資源環境科学府農業資源経済学専攻・教授	環境経済学・農業経済学 博士(農学)	統治(ガバナンス)モジュールサブリーダー
山本 正巳	ヤマモト マサミ		富士通株式会社・代表取締役会長	企業経営者 工学士	学生の履修支援と国内外の研究のアドバイザー
仲川 彰一 (H31.4.1追加)	ナカガワ ショウイチ		京セラ株式会社・研究開発本部部品研究開発統括部総合研究所長	構造工学・修士(工学)	学生の履修支援と国内外の研究のアドバイザー
岩野 和生	イワノ カズオ		株式会社三菱ケミカルホールディングス 執行役員Chief Digital Officer (H29.4.1変更) 兼 国立大学法人東京工業大学大学院環境・社会理工学院・客員教授	ビッグデータ クラウドコンピューティング・ Ph. D	学生の履修支援と国内外の共同研究支援
白水 浩一	シロウス コウイチ		トヨタ自動車株式会社・先進技術開発カンパニー 電子技術領域・領域長 (H31.1.1変更)	自動車工学・修士 (情報システム学)	学生の履修支援と国内外の共同研究支援
野田 順康	ノダ トシヤス		西南学院大学法学部国際関係法学科・教授	開発政策、国土計画、防災対策・博士(人間環境学)	学生の履修支援と国際的なキャリアパス支援
山下 邦明	ヤマシタ クニアキ		日本学術振興会(JSPS)バンコク研究連絡センター長	国際関係論(国際協力・NGO・NPO)・外国研究学士	海外での現地実習支援
浦口 あや	ウラグチ アヤ		一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン・シニアマネージャー	森林保全、途上国支援・博士(地球環境)	学生の履修支援と海外の共同研究支援
Hugh Possingham	ヒュー ポッシンガム		The University of Queensland・Professor of Mathematics	Environmental decisions Ph. D.	学生の国際交流支援と国際セミナー
Anne Larigauderie	アン ラリゴ-テ-リー		DIVERSITAS, executive director	Biodiversity science Ph. D.	学生の国際交流支援と国際セミナー
Thomas Elmqvist	トマス エルクヴィスト		Stockholm University and Stockholm Resilience Centre, Professor	Urban social-ecological systems and globalization Ph. D.	学生の国際交流支援と国際セミナー
鐘江 嘉彦	カナガエ ヨシヒコ		持続可能な社会のための決断科学センター・教授	企業内教育・修士(経営学)	産学連携・キャリア支援担当
比良松 道一	ヒラマツ ミチカズ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	園芸学、食育・博士(農学)	総括担当
村上 貴弘	ムラカミ タカヒロ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	保全生態学、生態学、進化生物学、環境教育・博士(地球環境科学)	総括担当
鹿野 雄一	カノ ユウイチ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	河川生態学・断崖生態学・エコインフオマテックス・博士(学術)	総括担当
Firouzeh Javadi	フィロゼ ジャヴァディ		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	生物学・博士(農学)	総括担当
江口 久美	エグチ クミ		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	都市工学・博士(工学)	総括担当
細谷 忠嗣	ホソヤ タツツグ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	昆虫系統学、生物地理学・博士(理学)	環境モジュール担当
藤原 敬大	フジワラ タカヒロ		大学院生物資源環境科学府環境農学専攻・准教授	森林政策学・博士(農学)	環境モジュール担当

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
太田 徹志	オタ テツジ		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	森林計画学、博士 (農学)	環境モジュール担当
御田 成顕	オタ ナリキ		持続可能な社会のための決断科学センター・講師	林政学・博士 (学術)	環境モジュール担当
高尾 忠志	タカオ タダシ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	地域計画、景観、土木 デザイン、文化的景 観、社会的合意形成・ 博士(工学)	災害モジュール担当
井手 淳一郎	イデ ジュンイチロウ		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	森林水文学・博士 (農学)	災害モジュール担当
錦谷 まりこ	ニシキタ マリコ		持続可能な社会のための決断科学センター・准教授	公衆衛生学、社会医 学、食物科学・博士 (医学)	健康モジュール担当
菊地 君与	キチ キミヨ		持続可能な社会のための決断科学センター・講師	国際地域保健・博 士(保健学)	健康モジュール担当
横田 文彦	ヨコタ フミヒコ		持続可能な社会のための決断科学センター・講師	国際保健、エイズ、疫 学、モニタリングと評 価・博士(公衆衛生 学)	健康モジュール担当
杉本 めぐみ	スギモト メグミ		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	地球環境学(災害、防 災教育)・博士(地球 環境学)	健康モジュール担当
川崎 修良 (H29.7.16追加)	カワサキ ノブヨシ		持続可能な社会のための決断科学センター・講師	都市計画、地域環 境学・博士(人間・環 境学)	統治(ガバナンス)モジュール担当
鄭 有景(JEONG YUKYONG)	チョン ユギョン		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	政治社会学・博士 (学術)	統治(ガバナンス)モジュール担当
銭 琨(QIAN KUN)	セン コン		持続可能な社会のための決断科学センター・助教	実験心理学、知覚心理 学・博士(心理学)	人間モジュール
李 貞憲(LEE JOUNGHUN)	リ ジョンホン		大学院システム生命科学府システム生命科学専 攻・助教(H31.4.1変更)	生物学・博士(理 学)	人間モジュール担当
井上 裕香子 (H31.4.1追加)	イノウエ ユカ		持続可能な社会のための決断科学センター・特任 助教	社会心理学・博士 (学術)	人間モジュール担当

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成31年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (2019) *(今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数	40	20	20	20	20	20	20	
① 応募 学生 数	33	24	18	24	22	12	3	
	うち留学生数	6	3	7	9	10	5	
	うち自大学出身者数	19 (0)	18 (0)	8 (1)	13 (2)	9 (1)	8 (1)	3 (2)
	うち他大学出身者数	14 (6)	6 (3)	10 (6)	11 (7)	13 (9)	4 (4)	0 (0)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	うち女性数	12 (3)	6 (1)	2 (2)	7 (3)	13 (9)	5 (4)	1 (1)
② 合格 者数	32	23	17	24	17	10	3	
	うち留学生数	6	2	6	9	8	3	
	うち自大学出身者数	19 (0)	18 (0)	8 (1)	13 (2)	7 (1)	8 (1)	3 (2)
	うち他大学出身者数	13 (6)	5 (2)	9 (5)	11 (7)	10 (7)	2 (2)	0 (0)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	うち女性数	12 (3)	6 (1)	2 (2)	7 (3)	10 (7)	4 (3)	1 (1)
③ ②の うち 履修 生数	31	23	17	24	17	10	3	
	うち留学生数	6	2	6	9	8	3	
	うち自大学出身者数	18 (0)	18 (0)	8 (1)	13 (2)	7 (1)	8 (1)	3 (2)
	うち他大学出身者数	13 (6)	5 (2)	9 (5)	11 (7)	10 (7)	2 (2)	0 (0)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	うち女性数	12 (3)	6 (1)	2 (2)	7 (3)	10 (7)	4 (3)	1 (1)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.03倍	1.04倍	1.06倍	1.00倍	1.29倍	1.20倍	1.00倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	80%	115%	85%	120%	85%	50%	15%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の( )に内数を記入してください。

※平成31年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成31年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。



17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数  
 ②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

【公表(備考欄を除く)】  
 (各年度3月31日現在(ただし平成31年度(2019年度)は提出日現在))

プログラムの履修生数等	履修生数 (選抜年度内辞退は除く。)					平成25年度 (H26.3.31 - H27.3.30)		平成26年度 (H27.3.31 - H28.3.30)		平成27年度 (H28.3.31 - H29.3.30)		平成28年度 (H29.3.31 - H30.3.30)		平成29年度 (H30.3.31 - H31.3.30)		平成30年度 (H31.3.31 - 提出日)		平成31年度 (2019年度) (提出日(2019.5))		H32.3.31 (2020) (見込)		修了者数 (見込含)	辞退者数 (見込含)					
	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	修了	辞退	修了	辞退	修了	辞退															
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計									
平成25年度選抜	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
うち他大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
平成26年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成27年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成28年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成29年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成30年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成31年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
うち他大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち女性数	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
修了者数																											1	0
うち就職者数																											0	0
辞退者数																											0	0
うち就職に伴う辞退者数																											0	0
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数					0					0					0					0							0	0

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。

※標準修業年限を超えて在学する者は、「D4」欄に計上してください。

※満期退学者は修了者には含めず、退学した時期の「辞退」欄に含めてください。満期退学者のうち退学後に学位取得した者(プログラムが修了者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」欄に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「修了計」欄及び「辞退計」欄は二重計上とならないよう「辞退計」から該当数を差し引いてください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む。)のみをカウントしてください。また、満期退学後就職した後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めなくてください。

※辞退者(Q.E.)によるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 【概要】

われわれ人類はいま、地球環境と文明社会の持続可能性という大きな課題に直面している。そして、気候変動・市場のグローバル化・急速な人口変動などの諸課題に対して、さまざまな決断に迫られている。このため、これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、専門分野における世界でトップレベルの業績(専門性)、持続可能性に関する広範な知識(学際性)に加え、専門・学際科学の成果を統合し課題解決への決断を下すための新たな学識(統域性)を持つことが求められる。またグローバルリーダーには、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力が必要とされる。

本プログラムではこの要請に応えるために、**3つの学識(専門性・学際性・統域性)と4つの実践的能力(国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力)**を修得できる5年一貫のカリキュラムを大学院生に提供する。3つの学識については、以下の方針で教育を行う。

**専門性**：多芸に秀でるための唯一の道は、まず一芸に通じることである。この観点から、本プログラムでは主専攻における専門教育を通じて、世界でトップレベルの実力を身につけさせる。この実力を養成するため、主専攻教育に加え、研究計画法と論文作成法の教育を英語で実施する。

**学際性**：本プログラムでは、**座学よりも現場経験を通じて実践的に学際性を身につける**ことを重視する。このため大学院生は、以下の重要課題に関する5つのモジュール(異分野の教員・大学院生チーム)のいずれかに所属し、国際共同研究プロジェクト(カンボジアの持続的森林利用、国際災害調査、バングラディッシュの疾病管理、地方自治のガバナンスなど)を通じて国内外での現場経験を積みながら、問題解決型の科学を実践的に学ぶ。

①**環境**(環境保全)：食糧生産・エネルギー供給との両立を通じ、持続可能な環境利用を実現する。

②**災害**(防災・復興)：災害時の被害を最小化し、災害に対する復興力の高い社会システムをつくる。

③**健康**(健康改善)：従来の医療の枠組みを越えて、社会的な健康管理システムを確立する。

④**統治**(ガバナンス)：縦割りを打破し、法律・制度・経済のよりよいガバナンスを確立する。

⑤**人間**(人間の社会的協力)：多様な価値観を持つ市民の協力・協働を通じて、豊かな社会を作る。

**統域性**：**オールラウンド型科学として「決断科学」を開拓**し、この科学を軸としてオールラウンド型リーダーを養成する。専門・学際科学の成果を問題解決に生かすには、多くの選択肢の中からひとつを選ぶ「決断」が必要である。決断科学とは、このような決断を成功に導く方法論に関する科学である。決断を成功させるには、さまざまな不確実性と価値観の多様性を考慮する必要がある。このためには、確率・統計の理解に加え、人間の心理・行動に関する体系的知識が必要である。本プログラムでは、医学、心理学、生態学、経済学などの諸分野で研究されてきた人間の心理・行動に関する研究成果を体系化し、大学院生とともに論文・総説・教科書を出版する。大学院生はこの過程を通じて「決断科学」を主体的に学び、統域的な思考力を習得する。

さらに本プログラムでは、**多くの学生にリーダー経験を積ませる**ことで、指導力のあるリーダーを養成する。このため、組織研修ワークショップを年1回、合宿形式で開催する。この合宿は学年リーダー、およびモジュールリーダー計10名から構成されるリーダー会議が中心になり、学生が自主的に企画・運営する。「どうすれば指導者として成長できるか」「組織をうまく運営するにはどうすればよいか」「どうすれば適確な決断ができるか」という3つの基本課題を与え、これらの基本課題について学ぶための講演、グループ討論などのプログラムを学生に企画させる。学年リーダー、およびモジュールリーダーは毎年交代し、多くの学生がリーダー経験を積む。本プログラムでは毎年20名の受け入れを予定しており、初年度には2年次からの参加も認め、40名でスタートする。4年後には100名規模となる。この100名規模のチームを運営する経験を通じて、指導力を育てる。

### 【特色と優位性】

①オールラウンド型の科学として「決断科学」を開拓し、この新しい科学を軸として、専門的・学際的知識を問題解決に向けて統合する力を持つオールラウンド型の人材養成を図ること、②問題解決型の国際共同研究を企業・行政と協力しながら進め、その現場経験を通じて学際性を実践的に身につけさせること、③学生に100名規模の組織を運営する経験を通じて学生の指導力を育てることが、本プログラムの独自性・優位性である。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

# 持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム

i. 世界を牽引出来るリーダーの養成

ii. 持続可能な社会の実現

オールラウンド型リーダーに必要な3つの学識と  
4つの実践的能力を修得する。



》世界をリードする専門性の養成

海外の拠点研究室を訪問し、指導的研究者との討論を通じて、国際的に卓越した水準の学位論文を完成させる。異分野の副指導教員・メンターを配置し、教育の質を高める。

》指導力の養成

組織研修ワークショップ・海外共同研究などの企画・運営、学年リーダー、モジュールリーダーなどを通じて多くの学生がリーダー経験を積む。

》5つの学際モジュール

環境、災害、健康、統治(ガバナンス)、人間(人間の社会的協力)という5つの課題について、モジュール(異分野の教員・大学院生チーム)を組織し、現場経験を伴う実践的な学際教育を実施する。



》プレゼンカの上向

スーパープレゼンテーション(TED)をモデルとする英語によるプレゼンテーションセミナーを実施し、高度な表現力を習得させる。学生のプレゼンテーションは、可能な限りインターネットで公開し、広く外部からアドバイスを受ける。



》決断科学の開拓

問題解決型の新しい科学(統域科学)として、決断科学(不確実性・価値観の多様性を考慮して決断し、その決断を成功に導くための科学)を開拓する。大学院生は決断科学を主体的に学び、統域的な思考力を修得する。



》国際力の強化

カンボジア森林保全、国際災害調査、バングラディッシュ疾病管理、韓国・ガバナンスプロジェクト等に参加し、行政・産業界・海外機関とも協力して国際経験を積み、現場対応力を強化する。



プログラムサポート

- 国内外の第一線で活躍する特任教員を採用し、国際的な学修研究環境を日常的に提供する。
- 学生に奨励金、研究費を支給し、主体的に独創的な研究を計画・実施することを奨励する。
- 学生の成長をビデオ映像で記録する。学生は自分の課題をポートフォリオで確認しながら、本プログラムの課題に取り組む。

## プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

当初に設計したカリキュラム(3つの学識と4つのスキルを学ぶ7科目×5年間、計70単位に加え、選択科目10単位)を実践し、リーダーとしての訓練を積み、決断力と実行力を備えた博士人材を育てるプログラムを構築できた。「多芸に秀でるためにはまず一芸に秀でること」という方針の下で、2回のQE(Qualifying Examination)や英語論文執筆指導を通じて**専門性**を鍛えると同時に、熱帯林の違法伐採現場、地震・水害の被災地、東南アジアの無医村、人口減少に直面する中山間地などの困難な現場でのプロジェクトを通じて、問題解決に必要とされる**学際性・指導力・現場の対応力**を育ててきた。またこれらの経験を決断科学(Decision Science)へと一般化できる**統域性**を育てるために、プログラム内テキスト作成、「決断科学のすすめ」輪読、機関誌決断科学への論文投稿などで体系的な指導を行った。4つのスキル(研究提案力、指導力、プレゼン力、国際力)は、学振DC1,2の申請書の添削、合宿形式での地域課題解決提案、TED演習、海外での実地の交渉などを数多く経験することで磨いていった。これらの教育体制は今後、「未来共創大学院プログラム」(仮称)に継承される。

現場でのプロジェクトの成果として、屋久島での獣害駆除で出たヤクシカ個体を大牟田動物園の大型肉食獣に与える取り組みは全国的にも大きな反響を呼んだ。災害モジュールでは、九州北部豪雨や熊本地震の被災地における復興支援に組み込み、ボランティア活動、聞き取り調査、復興新聞の発行などを通じて被災地から信頼される成果をあげている。健康モジュールでは、ノーベル平和賞を受賞したグラミンググループと連携して、ITを活用した携帯型診断キットによる医療支援活動を展開し、グラミンググループ指導者のMuhammad Yunus博士からも高い評価を得ている。統治モジュールでは人口減少に直面する対馬などの自治体において、高校生に対するシチズンシップ教育に組み込み、高校生が地域の魅力を発掘する活動を通じて、自治体から高い評価を得ている。

リーダーに求められる資質指標21項目(コミュニケーション力、ビジョン、前向きな姿勢、心の安定、集中力など)を用いてプログラム入学前およびその後の自己評価を比較した結果、21項目全てにおいて評点の向上が見られ、プログラムの教育を通じてリーダーシップが育成されたと判断される。

本プログラムでは、70単位の必修科目に加えて、学生の自主的な研究教育活動を積極的に支援してきた。この活動から、地域伝統技術の伝承研究(久留米餅・伝統食など)、ドローンの災害現場での活用、ビッグデータの情報収集・整理ツールの開発などの研究成果が生まれた。また、アウトリーチ活動として、機関誌「決断科学」と英文の「Newsletter」の発行、企業と連携したサイエンスカフェの開催などの取り組みが発展した。その活動はテレビや新聞でも取り上げられた。

本プログラムの修了生(26名)は大学、企業、自治体などで活躍しており、「大学5:実社会5」という当初の計画に対して、アカデミアへの就職割合は50%(学位未取得者を含めて集計すれば41%)である。企業では、日立製作所、NTTデータ数理システム、旭化成などに、大学では九州大学、中央大学、奈良大学、鳥取短期大学などに就職している。日立製作所に就職した学生は、イギリス担当部門に配属されている。2年間のポストクを経て、損害保険会社に就職した学生もいる。

修了生のフォローアップとして、アンケート調査および直接インタビューを行っている。修了生の本プログラムへの評価は高く、自らのキャリアをより自由かつ高度に展開できたと回答している。また民間へ就職した修了生3名の上司に聞き取り調査を行ったところ、専門性の高さ、コミュニケーション能力の高さ、広い視野などを高く評価され、今後もこのような博士人材を輩出することを要望された。

## プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

博士課程教育リーディングプログラムでは、「環境、エネルギー問題など、人間・社会・自然が複雑に絡み人類社会の持続可能性を脅かす深刻な課題に直面している」という現状認識にもとづき「専門分野の枠を超えて全体を俯瞰し社会的課題の解決に導く高度な人材」を育成する大学院教育改革を目標としている。とくにオールラウンド型では「人文社会科学、生命科学、理工学を統合した教育」を求めている。本プログラムでは、この要請に応えるためには、オールラウンド型の新しい科学が必要であるという考えにもとづき、社会における人間の意思決定・行動についての新しい統域科学として、Decision Science (決断科学、意思決定科学) の構築を目標とした。本プログラムの受講生にはこの目標を提示し、新しい科学と一緒に作ろうと呼びかけた。この目標を達成するために、申請書に記載したとおり、国際的な研究プログラム Future Earth と連携し、環境・災害・健康・統治・人間という、人類社会全体が取り組むべき中心課題について、現場での問題解決型研究に取り組んできた。その現場で学生をトレーニングし、そこで得た知識・経験を Decision Science の構築・体系化に生かしてきた。「決断科学のすすめ」(2016年文一総合出版)、機関誌決断科学 1-6号(2015-2019年)にプログラム学生が執筆した学際的論文・記事などを通じて Decision Science の構築・体系化が進んでおり、現在「Decision Science for Future Earth」という英文のコンセプト論文が完成に近づいている。これらの取り組みは、Simon Levin (Princeton 大学、2005年京都賞受賞者)、Harold Mooney (Stanford 大学、2002年ブループラネット賞受賞者)らの国際アドバイザーから高く評価され、また Future Earth の国際的取り組みの中でも注目されている。

九州大学では本プログラムの申請にあたり、自然・社会・人文科学を含む全専攻を横断・統合したオールラウンド型の新しい学位プログラムを構築することを九州大学全体の目標として設定し、役員協議会、部局長会議などでの議論を通じて改革意識を共有してきた。環境・災害・健康・統治・人間という5つの重点課題に先駆的な実績を持つ教員を組織して、本プログラムの指導体制を構築した。また、JSTの「フューチャーアース構想の推進事業：課題解決に向けたトランスディシプリナリー研究」助成金を獲得して、SDGsに貢献する問題解決型の統域的研究を全学的な協力の下で推進してきた。九州北部豪雨発生後は、全学的な協力の下で九州大学災害復興支援団を結成し、支援団による調査研究・復興支援活動に予算配分を行い、本プログラムの教育との連携をはかりながら、学部生にも現場での学際的な学びの場を提供してきた。このような実績のもとに、本プログラムを継承する新たなオールラウンド型の大学院プログラムを2020年度から開講する方針を決定し、ワーキンググループを設けて実施準備を進めている。また、九州大学では2018年4月に共創学部を設立し、「共創」をコンセプトとして、新たなイノベーションの創出を担うグローバル人材の育成に取り組んでいるが、「共創」とは Future Earth が重視する co-design である。このように、共創学部の教育理念には、Future Earth と連携した本プログラムの実績が生かされており、今後は新たなオールラウンド型の大学院プログラムと共創学部の連携を通じて、全学をあげて本プログラムの成果を継承する。

一方で、決断科学大学院プログラムで実施してきた問題解決型の事業のうち、ソーシャルビジネス化可能な部分を担当する一般社団法人「九州オープンユニバーシティ」を設立する(2019年6月に設立の予定)。今後、九州大学伊都キャンパス生物多様性保全ゾーンを活用した研修などのビジネスを展開し、その収益を社会問題解決型の教育研究資金にあてる計画である。本プログラムの修了者がこの法人の事業に協力・参加する予定である。